

認知症の徘徊、早期発見

ツクイのシステム服・靴に発信器

デイスリーブス（通所介護）大手のツクイは認知症患者の徘徊（はいかい）を早く見つけられるシステムを発表した。患者の服や靴に電波の発信器を搭載し、レーダーを使って居場所を探せる。秋から介護事業者や一般家庭に売り出していく。

30カ所で運用試験を実施する。9月にも一般販売を始め、導入拠点数を増やしていく。

警察庁の発表によると、認知症の徘徊者は4年連続で1万人を超え、2016年は1万5432人にのぼった。行方不明になった徘徊者が事故に巻き込まれる例が相次いでおり、早期発見が課題となっている。

防犯機器メーカーの加藤電機（愛知県半田市、加藤学社長）と組んで開

誤差は約50センチ程度。

8月から宮城県、新潟

県のデイスリーブス事業所

題となっている。